

## 令和4年度 第2回市立公民館運営審議会 会議録

- ・日 時 令和5年2月22日（水）午前9時30分～午前11時30分
- ・場 所 市民交流プラザ 市民交流スペース
- ・参加者 福知山市立公民館運営審議会委員16名  
福知山市教育委員会教育長  
事務局：中央公民館長、各地域公民館長 中央公民館次長補佐
- ・傍聴者 なし

### ○開会

挨拶 福知山市教育委員会教育長

### ○議事

#### 1 令和4年度市立公民館の事業等について

- ・公民館講座に関して効果測定するために参加者に5項目を設定し実施したアンケート結果について説明。（別添資料P3～7）
- ・スマートシティふくちやま生涯学習市民講座の実施状況について説明。（別添資料P8～9）
- ・令和4年度公民館活動報告について各館長より説明。（別添資料P10～52）

#### 2 今後の公民館のあり方について

- ・地域公民館等長寿命化（大規模改修）事業
- ・桃映地域公民館等整備事業
- ・まちづくり構想 福知山の具現化に向けた取組について  
現在の進捗状況を中央公民館長より説明。（別添資料53～56）
- ・地域住民センターの展開について、まちづくり推進課より説明。（別添資料）  
地域住民センター設置の背景と目的  
地域住民センターを設置することで変わる事  
地域住民センター設置のスケジュール

#### 3 その他

特記事項無し

## 質疑等

(委員) 公民館の館長さんはじめ皆さん、大変熱心に取り組んでいただいております、感謝申し上げます。事業報告の中で大江地域での地区公民館の休館があったという報告があった。実は三和町においても一部地域で地区公民館が活動できなくなったという状況がある。地区公民館の運営が過疎化や高齢化などで人材の確保が難しい状況になってきている。今後、市として地区公民館と地域公民館の関係をどうしていくのか、運営が難しくなっている地区公民館をどう支援していくのか。その辺りの方針を聞かせていただきたい。

(公民館) 地区公民館の運営については、過疎化や高齢化、地域の担い手のことなど各地域でそれぞれ違う課題があるということ認識しており、各地域に合った活動を展開していくために今後どうしていくのかということをしっかり受けとめ考えていかなければいけない時期が来ていると思う。大江では地区公民館の活動がやむを得ず出来なくなったということを受け止めて、地域公民館として、地区公民館に出向いていき、そこで学んでいただく。地区公民館だけではなかなか事業実施ができず、それを引っ張っていく人材も確保できないというところについては、地域公民館として、しっかりそこを補っていけるような活動をしていきたいと考えている。具体的には、地域公民館の講座を地区公民館と連携し、地区公民館に出向いて実施し、色んな方が参加できる場を作っていく必要があると考えている。

(公民館) 今年度は地区公民館3館あったが、来年4月から2館になる。地区公民館がない地区については、代表自治会長に運営協議会のメンバーに入らせていただき地域公民館の事業と一緒に協力いただく形をとっている。今年度は、これまで地区公民館で実施していた「子どもの科学教室」を地域公民館で実施し、運動会についても「スポーツフェスティバル」という形で地域公民館を使用して室内で、できる簡単なゲームを楽しんでもらうような形に変更するなど、地域公民館と地区公民館が連携しながら行った。

また、講座についても出前講座を実施している。それまでは地域公民館だけで実施していたが、地区に出向いて同じ講座を実施している。人権講座についても地区公民館単位での人権講座の実施が難しくなっているため、運営協議会の方が集まる際に人権に関するDVDを鑑賞する機会を作るなど地区公民館がしていたことを地域公民館がどんどん取り入れていくような形で現在進めている。

(委員) 地域住民センターの資料に地域公民館のことは書いてあるが、地区公民館のことがどこにも書いていない。今後、地区公民館への活動参加が少なくなり、また、担い手も少なくなると予想されるので、地区公民館が行っていた事業につ

て、地域公民館に支援してもらえればと思う。

(委員) コロナ禍の中で公民館事業について、なにか方向転換したものがあれば教えてほしい。

アンケート結果によると、公民館講座には、50代、60代、70代の参加が一番多い。この世代の方が、今後、免許返納など交通手段がなくなった場合に、講座に参加してもらうためにどのような対策をされているか。

各地域公民館からの事業報告で「来てもらえる公民館」という話が出たと思うが、何%の人に来てもらえれば満足なのか。公民館に興味がある人はどれぐらいいるのか。興味がなければ、なぜないのか。その辺りの分析は公民館の命題としてあるのではないのかと思う。

また、格差が生まれつつある社会の中で、趣味を楽しみたくてもできない方もいる。そういった方にも光を当てられる取組ができないか。公民館に来て良かったという意見がもらえるような工夫ができないかと思う。

将来の年寄りの方にも目を向けてもらい、認知症対策の講座やゲームなどを増やしてもらえると50代、60代、70代の利用者がもう少し増えるのではと期待している。

(公民館) 交通手段の問題であるとか、公民館に対して関心がない方がいないかとか、市民のうちどれだけの方が趣味や元気づくり、人生を豊かにする活動に参加しているのかということは、一番大事なところであると思う。各館ではそこをしっかりと踏まえて取組を進めていきたい。

地域包括支援センターが、令和4年度から高齢者向けだけではなくて、地域の課題解決に向けた相談事を受けるという形に事業を展開していくということも聞いており、地域公民館と各中学校区にある地域包括支援センターとしっかり連携を取って、地域の方に喜んでいただいたり、来てよかったと言っていただけるような取組に広げていかないといけないと思っている。1人でも多くの方に参加していただけるようにご意見をしっかりと受けとめて考えていきたい。

また、各地域公民館にWi-Fi機能が順次整備されるため、Wi-Fi機能を活用してZoomでの研修など地域公民館に行かなくても参加していただけるような方法を今後考えていきたい。

(公民館) 高齢者の運転の手段や自家用車の運転が難しい方への配慮については、「ふるさと講座夜久野学」という地元の文化を勉強する講座の実施時には、取り上げた先の集会所を使用したり、史跡の側で集合するなどしている。また、3月10日に高齢者を対象とした講座「高齢者安心講座 夜久野いきいき大会」を予定しているが、そちらについてもバスを利用される高齢者を想定して、開始時間をバ

スが会場に到着する時刻に合わせ、終了時間についてもバスの発車時刻に合わせるなどし、配慮を行っている。

また、平成22年から地域の課題を解決したいという思いをどう形にするかという考え方の中で、「まちづくり講座」を実施している。その時々夜久野の課題に対して、関係がある先進地の人を招いたり、自治会長や民生児童委員を対象にして集まったりということを中心に心がけています。先週に実施した「まちづくり講座」では、話し合いについて学習した。

(公民館) 全ての方が地域公民館の生涯学習の取組みに参加したい、というふうな心に余裕があるかなというところでは、皆さんの暮らしの中に「集う・学ぶ・結ぶ」ということを取り入れていただけるように、そのことで少しずつ豊かな気持ちが育まれたり、コミュニティが育まれることを、伝えていくことも大切だと感じている。

当地域も交通の件に関しては重要な課題と考えており、地域の自治会長や市の都市交通課と協議を重ねて、昨年12月から地域のタクシー利用者を集約してタクシー会社に連絡し、複数の利用者が同乗して利用できるという仕組みを開始することができた。今後もこのような提案を展開していきたいと思う。

(委員) 各地域公民館には、テトラパック、ベルマーク、インクカートリッジの回収箱を設置していただくなどご協力いただき感謝申し上げます。捨てられるゴミが教育資金になるということで、今後ご協力いただければ大変ありがたい。

先ほどご意見があったが、趣味に力を入れたい方ばかりではないということで、生活の底上げというのが大変重要になってくると思う。

また、地域住民センターになるということで、地域公民館の仕事の範囲が広がり大変だと思う。これからは地域公民館と地域包括支援センターなど、横の連携が重要になってくる。風通しの良いコミュニケーションをとって事業が少しでも進んでいくことを希望する。また、社会福祉協議会とも新たなコミュニケーションの場なり議論の場を作っていただいて、何とか全体が進むようお願いしたい。

(委員) 地域住民センターの話に興味深く聞かせていただいた。新たな取組でとても期待をしている。今後の審議会の開催場所について、先行している北陵地域公民館で開催してはどうか。現場に行くことで学べることもあると思うので、提案させていただきたい。

(委員) 昨年度は、規模縮小や中止の話が大半だったが、今年度は感染対策を十分にとり、たくさんの方が学べる場の提供に向けて工夫を凝らし、たくさんの講座を実施されている。また、ICT化や子育て世代の参加など色々な課題が見えていた

が、それについても真摯に向き合って色々な工夫をしていただいていることに感謝申し上げたい。

地域住民センターの説明で地域包括支援センターとの連携というところに大変興味を持った。コーディネーターがどのような働きをされているのかを教えてください。

(まちづくり推進課) 地域包括支援センターのコーディネーターの人数は、1か所に1人から3人ぐらいまでである。地域包括支援センターの専門職員と地域の方を繋ぐ役割を担っている。また、地域の方の繋がりを考えることが、地域住民センターの役割であるため、今後も色々な地域で展開していきたい。

(公民館) 北陵地域公民館にはこれまで地域包括支援センター機能がなかった。今年度より毎週木曜日に川口地域包括支援センターから職員の方に出張相談に来ていただいている。民生児童委員や地域の方が毎週のように相談に来られたり、職員が出向いて相談に乗ることもある。公民館に定期的に出張相談に来ていただくことで、地域包括支援センターの職員と地域住民のことを色々と話し合うことができるようになったと思う。

○閉会 副委員長挨拶